

2012年2月10日

■立候補の決意

私は、2011年3月11日の震災と福島原発事を受けて立ち上がった、多くの市民のひとりです。3.11の直後、大学院の仲間と共に、NGO「e-みらい構想」を立ち上げ、原発・エネルギー政策の研究を行うかたわら、市民団体・政党・宗教団体・企業などが共に脱原発を訴える枠組みを作り、デモやシンポジウムを行って来ました。しかし、政府は大飯原発の再稼働を強行し、官邸前に集まった十数万人の人びとの声は無視されました。そして、私も参加した大飯原発前の抗議行動は、機動隊によって排除されました。その時私は、政治を変えなければ、原発をなくすことはできないと痛感しました。

ドイツ緑の党のベアベル・ヘーン議員とお会いしたことは、私にとって最大の転機でした。チェルノブイリ事故の後、2人の子どもの母親としてデモを組織し、そこから緑の政治家となり、デモで訴えていた政策を実現させたヘーン議員の姿が、3.11後、日本で立ち上がったお母さんたちの姿と重なりました。そして、日本にも緑の党が必要だと確信しました。

ほんの1年前まで、私は政治活動に関わったこともなく、まして立候補するなど、想像もできませんでした。しかし原発事故をきっかけに立ち上がった人びと、特に女性や若者のエネルギーが政治に向かわなければ変化が起きることはないと感じ、その中のひとりとして選挙にチャレンジする決心を固めました。2012年1月から緑の党の結成準備に参加すると共に、地元である京都でも、緑の党の理念を広めるために活動して来ました。今では京都の会員も100名を超え、18歳から80歳まで、多様なメンバーが活躍しています。関西をはじめ、多くの皆さんに支えられ、選挙の体制も整いつつあります。みなさんと一緒に、楽しく、力一杯、選挙に取り組み、当選を目指します。

私の挑戦をきっかけにもっと多くのひとびとが、緑の党を土台として政治に立ち上がってくれることを心から願っています。

■政策…「3つのe！」

energy…福島の悲劇をくり返さない。原発ゼロで住民主導のエネルギー転換を

原発を再稼働せず全て閉鎖し、短期的にはガス火力と「節電所(※)」、長期的には住民主導の再生可能エネルギー普及で安全・安心・持続可能な社会の^{いしづえ}礎を築きます。再生可能エネルギー特別措置法のさらなる改善で、日本各地に適した資源の活用と雇用の創出を進めます。福島へ長期的な支援を行うとともに、立地自治体が原発への依存から脱却できるための交付金を整備します。

※節電所：時間帯別料金制度や需要応答資源、スマートグリッドなど効率的なエネルギー利用を可能とするさまざまな制度・技術の総称。例えばアメリカには原発約50基分の「節電所」が存在しています。

economy…ひとと自然に優しい税制で環境と経済の両立を

アベノミクスは自然の遺産を食いつぶし、子どもや孫へツケを回す経済政策です。自民党政権下で広がった格差・貧困、そして環境軽視こそが「失われた 20 年」をもたらしたのです。環境破壊と資源浪費に課税し雇用や投資につながる減税と、フェアな分配を進める環境税制改革を実現します。経済は本来ひとを幸せにするもの。緑の党こそ本当の経済政党です。

empower…デモから政治につながる社会を一女性やマイノリティーが参加する民主主義の実践

多様性を尊重し、人間の能力の開花を妨げるあらゆる差別に反対します。お母さんや子どもたちもデモに参加できる社会にするとともに、ワークライフバランスの実現、子育て政策の充実、大学無償化、選挙供託金の廃止などで、若い世代や女性の政治参加を促進します。

■略歴

奈良女子大学卒業、上智大学大学院修士課程修了

1981 年 陶芸家の 7 代目として京都に生まれる。清水寺や高台寺を庭として育ち、自然や文化に親しむ。

1997 年 京都で開催された COP3(気候変動枠組条約第 3 回締約国会議)に高校生スタッフとして参加。

2000-2003 年 大学在学中、産官民連携の大阪府環境事業「エコ・フェスタかんさい」実行委員を務める。毎年約 1 万人の来場を実現。

2009 年 修士論文『『江戸町触集成』悉皆調査に基づく長期統計分析—下肥・塵芥処理を中心として』が優秀論文に選ばれる。

2011 年 震災と原子力発電所の事故を受け、若手研究者・学生などと共に、持続可能なエネルギー・環境の研究、実現を目的とした NGO「e-みらい構想」を設立、代表を務める。

2012 年 1 月 みどりの未来の会員となる。

2012 年 3 月 脱原発集会&デモ「バイバイ原発 3.10 京都」の呼びかけ人を務め、6000 人の参加を実現。

2012 年 4 月 京都で緑の党の地域組織「「緑」の京都・準備会」を結成、代表世話人となる。

2012 年 5 月 大飯原発再稼働に際して、地元おおい町で「もうひとつの住民説明会」を開催。原発立地自治体の経済・財政を住民と共に考え、脱原発後のビジョンを模索。

2012 年 7 月 緑の党(Greens Japan)の共同代表となる。

2012 年 10 月 韓国緑の党の再結成式に出席、原発問題・領土問題について対話を行う。

2012 年 11 月 ドイツ緑の党の党大会に出席し、スピーチを行う。ドイツの原発・エネルギー政策について学ぶと共に、日本の原発政策について発表。

2012 年 12 月 会員・サポーター110 名で地域組織「きょうと緑の党」を結成、共同代表となる。

著書に『原発ゼロ～私たちの選択～』かもがわ出版、2012 年(共著：安齋育郎・飯田哲也・大島堅一・長谷川羽衣子)

■健康状態

いつも元気です